

外国宣傳情報 第五十二號

昭・一六・セ・一〇情報局

本資料は外國發信局發信内容を其儘採録しあり、重慶又は第三國筋の宣傳の意圖による作爲的なる報道も少なからざるべきを以て取扱には特に注意を要す。

◎日本論調、ソ聯を稱讚

△モスクワ 七月三日 電報放送

日本新聞「ジャパンタイムス・アンド・アドバータイザー」の軍事通信員にして目下獨ソ戦に活動中の記者は「ソ聯兵の勇氣と果敢は一般の驚異となつてゐる、ソ聯兵は死を怖れず、重傷も顧みず抵抗してゐる」と報道してゐる。また他の通信員は、ロシア軍隊が極めて勇敢に戦つてゐると傳へ「彼らは敵の戦車に接近した後、隠蔽重から跳出して手榴彈を戦車目がけて投じてゐる。またソ聯の戦車兵は戦車が破壊されると戦車から跳出し味方の歩兵部隊に加してゐる。赤軍の兵隊は隠蔽型を利用することに巧である」と報じてゐる。日本新聞「朝

日」は現地通信員の報道を多岐掲載してゐるが、それらの通譯は一致して赤軍の兵隊の沈着と勇氣を信じて「赤軍兵士は如何なる場合と雖も捕虜とならず、最後まで抵抗を示してゐる。我々の見るところでは赤軍兵士は常人ではない、狗彘はこのやうな勇敢な敵と初めて會戦したのだ」と報じてゐる。

◎英、援ソ聯に印度を利用

△重慶 七月二日 支那語放送

中央社の消息（倫敦二日口際電）目前の情勢に依れば英國は印度を利用してソ聯を援助する事の可能なるを暗示して居る、同時に英國は印度の國防を加強し日本側の如何を問はず獨逸に打撃を加ふる事可能である、今日英政府はウエイフェルを駐印英軍總司令に轉任を宣布し緊急英國は印度より援ソ工作をなす、英國は若し近くソ聯が崩潰し獨逸が印度を襲へば英國は重要政段を取つて保護し英國進攻の地位を鞏固にする。

◎日本の浦鹽攻堅近し

△新華日報 七月三日

（重慶二日發ロイテル電）日本は樞軸國の汪政權承認の代償として浦鹽及沿海州に進襲するだらう。フアシストは吾人の永遠の敵だ、吾人は民主國の團結を更に強化し彼等の犯罪行爲に報復することを決意する。

△蘇港 七月二日

（重慶發）支那政府は日本が米國よりの對ソ輸送物資の人權を妨害する爲ウラヂオストウク港を封鎖するものと確信して居ると報じ又他の情報も多岐の日本飛行機が北方に向ひ其基地を出發したと報じて居る。